

本願寺 御歴代門主シリーズ

その十四

本願寺第十五代宗主

住如(じゅうによ)上人(一六七三〜一七三九年)

住如上人は享保十年(一七二五)、本願寺第十四代寂如(じやくによ)上人(ご往生の後をうけ、五十三歳にて本願寺第十五代の法灯を継職されました。

当時の本願寺は、第十三代良如(りようによ)上人が九条家より内室を迎えられるなど、九条家と密接な関係にありました。

住如上人は本願寺大谷家の生まれではなく、左大臣九条兼晴の第三子でありましたが、上人は幼少の頃より本願寺にて育成され、やがて寂如上人の子女と結婚され、本願寺内では、早くから次代の後継者と定められていました。

しかし、住如上人が継職されるに際して、教団内には「門主職の継承は、親鸞聖人の血統が重んじられるべきである」という反対の声も生じました。

こうした異論に際して住如上人は、「自分の後継には先代寂如上人の子弟から選び、門主職の将来は親鸞聖人の血統に復する」と表明されました。



本願寺第十五代宗主 住如(じゅうによ)上人

このような背景のもと法灯を継職された住如上人は、特に前代からの懸案であった諸国の御坊(別院)の再興や設置に力を尽くされ、福井御坊・堺御坊・伏見御坊・津村御坊の再興、山科御坊・讃岐塩屋御坊の設置、吉崎御坊の寺基移転等のご功績をのこされました。住如上人の門主職在任は十四年に及びましたが、元文四年(一七三九)八月六日、六十七歳にてお浄土へご往生されました。院号を信順院(しんじゆんいん)と申し上げます。なお、住如上人が継職に際して表明された通り、門主職のご後継には寂如上人のご子息である湛如(たんによ)上人が就かれました。

※参考文献 福間光起著

「親鸞聖人と本願寺の歩み」(永田文昌堂)

今後の法要スケジュール

「永代経法要」(善教寺本堂)

四月 十二日(土) 朝席: 午前十時

朝席: 午後一時半

講師 中村英龍師(佐伯区湯来町 最広寺)

*送迎マイクロバスを運行します。

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要(善教寺本堂)

四月 十六日(水) 午後一時半

*毎月十六日に本堂において

勤めております。

「初参式」(善教寺本堂)

五月二十五日(日) 午前九時半

*仏教婦人会主催行事



ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://www.otera.or.jp/> メール zenkyo@otera.or.jp